

オンラインで3か国がつながる国際連携・材料化学セミナー 「SDGs Seminar 2022 Autumn」に参加

植原 邦佳

グローバル D&I 推進室 技術職員

令和4年9月26日(月)～28日(水)に材料化学を基本とした体系的な学びを共有する国際連携セミナー「SDGs Seminar 2022 Autumn」が開催されました。本セミナーは、岡山大学工学部が主催し、大阪大学、中国の浙江工業大学、マレーシアの INTEC 教育大学と Sekolah Menengah Sains Teluk Intan(SEMESTI) が連携し、英語と日本語を交えた講演や科学実験を通して文化交流・キャリアに関する情報交換を行うことを目的としたものです。

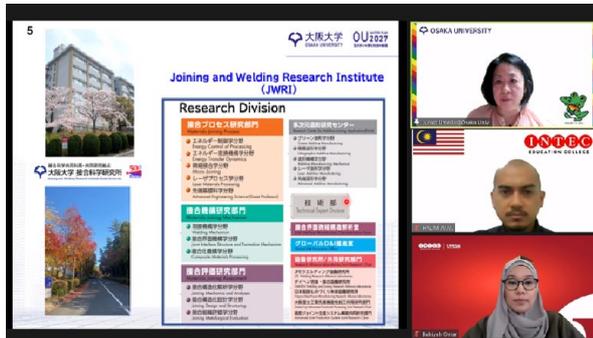
セミナー1日目は、日本語を学習する INTEC 教育大学の学生と日本人大学生・技術職員の交流会が開催され、お互いの国の印象や文化の違いなどを紹介しました。

2日目は、菅 誠治 岡山大学工学部長の挨拶の後、大阪大学の近藤 勝義 総長補佐(ダイバーシティ&インクルージョンオフィス)と INTEC 教育大学の Nor Bahiyah Omar 部長が参加者にエールを送りました。続いて、大阪大学接合科学研究所 梅田純子教授、浙江工業大学 Xiao Fan 准教授が自身のキャリアや最新の研究について講演を行いました。その後、それぞれの大学の学生による研究発表が行われ、接合科学研究所からは、接合界面機構学分野の Zexi Wu

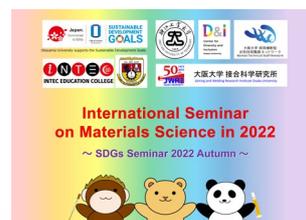
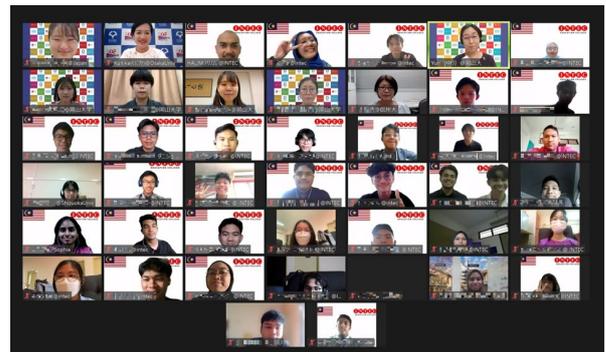
さんが“Application of Friction Stir Welding to Steel”と題して発表を行いました。

3日目は、岡山大学の共通設備機器管理に係る職種であるサイテック・コーディネーターの紹介の後、大阪大学 基礎工学研究科 中本 有紀 特任准教授と接合科学研究所の卒業生でもある岡山大学工学部 篠永 東吾 助教の講演が行われました。3日目の後半は、岡山大学 SDGs アンバサダーの大学院生によるマレーシアの中高生・大学生に向けてのオンライン科学実験「人工イクラづくり」や INTEC 教育大学と SEMESTI の学生からのマレーシアの文化や学生生活についての紹介が行われ、オンラインながらお互いの距離が近づいたように思います。セミナーは、INTEC 教育大学の Halim Mamat 先生による講演で締めくくられました。

本セミナーは、岡山大学ダイバーシティ推進本部・女性教員支援助成金(マネジメント力向上支援型)の一環として実施され、セミナーのオーガナイザーは女性技術職員2名(岡山大学・中村 有里 技術専門職員、大阪大学・植原 邦佳 技術職員)がつとめました。3日間を通して合計121名が参加し、連携大学だけでなく国内5大学からの参加者も見受けられました。日本と中国、マレーシアの3か国5機関が参加し、講演・文化交流を行う他に類を見ない新しい国際連携セミナーとして、中高生・大学生・大学院生・教職員と多様なステークホルダーで体系的な学びを共有することができました。



2日目集合写真(上)と梅田 純子 教授の講演の様子(下)



交流会集合写真(上)と
セミナーポスター(左)